



定額一圓全額...
 廣告料五圓...
 電話六四〇番

常磐炭田の開発と

片寄平藏 山口彌一郎

差出申一札之事
 嘉永六年より
 安政五年迄
 一金六拾貳兩壹分
 戸渡山材木
 切出仲間挽金
 銀四兩八分四厘
 貳割貳分

方に貸越分
 安政四年より當時切出

中
 一金貳百八拾四兩壹分
 門倉材木切出仲間挽金
 銀五兩七厘 貳割貳分
 殿方に貸越金 安政四年より
 より年迄
 一金三百拾五兩 石炭油
 取方に仲間挽金
 銀貳兩三分貳厘五毛貳分
 割貴殿方に貸越分
 三口金六百六拾壹兩貳分
 分挽金割合貸越分銀拾貳分
 貳分三厘五毛

一金三百兩程 嘉永六丑
 年より安政五年迄六ヶ
 年之間戸渡山仲間材木貴
 殿名前に而大阪屋店庄之
 介殿へ荷送仕候處同人方
 に貴殿之古借有之候に付
 右年限中我等より出金之
 材木仕切金之内より右古
 借返済仕候に付金貴殿方
 に貸
 一金貳百兩也 内倉山殘

本當時見積代金只今正金
 預ケ金同様之分
 油を取候節之大釜貳ツ當
 時一金八拾兩也見積代金
 只今正金預ケ金同様分
 三口金五百八拾兩程貸
 金併預ケ金同様分 安政
 六年三月より生石炭掘
 一金三百七拾三兩三分
 出に付仕入前金貸渡高之
 内銀三兩四分石炭貳萬五
 千俵代金差引 殘貸貸越
 分
 一金貳百拾九兩貳分 安
 政六年五月より時貸併
 に齊田鹽四千八百俵代金
 貸之内成瀬家併外一口其
 差引殘貸殿方に貸越分
 貳口金五百九拾三兩壹
 分
 銀三兩四分
 三口總合金千八百三拾五
 兩
 銀六分三厘五毛程
 右者御實父半藏殿與年來
 懇意に付去る嘉永六年丑
 年より戸渡山内倉山材木
 切出し白水山藤原山石炭
 油取方迄之處挽貳ツ割
 仲間間買仕候に付右山
 々に買入代金併仕入金共
 外諸入用共一式不殘我等
 より出金致出來候材木之
 儀は平藏殿名前に而御當

文藝募集

無之趣太右衛門殿を以種
 々被相款候に付御實父平
 藏殿をば存生中別懇一茂
 仕り候事故家督爲相續前
 書之貸金不殘勘辨致差進
 申候然る上は以來渡世向
 相勵追々繁昔被致候様仕
 度候依て一札相渡置候
 處如件
 萬延元年十月
 明石屋治衛門
 古川屋平藏殿
 相續人 平左衛門殿

新車御披露
 三十四年式「デラックス、セダン」入車
 致しました。貸切の御用の節は是非御
 試乗を御願ひ致します。
 最新型セダン揃ました
 電話六四〇番
 尼子タクシ

難波 陸
 内科一般
 醫學博士
 平町大町新川端
 電話五〇二

高久病院
 院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
 平町田町 電話五二三番

内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

石炭
 コークス
 玉炭
 平驛前
 阿部石炭商店
 電話三七番

謝恩と奉仕
 燃ゆる大塚へ...
 靴!! 五圓以上一割引
 最新なるスタイル 堅牢極まる品質
 精選された材料 驚く可き廉價
 既に覇權を確立せる...大塚の靴
 平・田町
 大塚製靴部
 電話七十七番

お惣菜用 さつま揚 吉原揚
 平産婆看護婦學校
 校長 清野キヨ子
 電話三〇七番

かまぼこ造
 平町一丁目
 電話一四一番

平南町
 平産婆看護婦學校
 校長 清野キヨ子
 電話三〇七番

△申込成るべく早く
 △新學期開始四月八日より
 △卒業兩科通して一ヶ年

温泉復活へ一路猛進

湯本町に委員会を組織

既報湯本町愛湯會では同町温泉の復活に就いて種々計畫しつゝあるが其の實現は一向に捗らぬので同町區會議員鯨岡久一郎氏外六名の議員は今回新たに温泉復活委員會を組織し愛湯會と呼應して各種の復活運動を行ふ事となり先づ磐炭、入山兩會社技師に依頼して源泉調査を開始するが調査は本年一杯に亘る模様である

水道断水

今夜から明朝へ平町水道部では目下二丁目地内で排水管布設工事を進めて居るが本三日午後十一時より一丁目、二丁目、鍛冶町の全部を南町、紺屋町材木町、三丁目各一部に水道の断水を行つて工事を進めると

石城青年 總集會

第三方面部

講演・映畫に意見發表

既報石城聯合青年團第三方面部平町外十二ヶ村の總集會は明日午前九時半より聚樂館に於て開會の辭(平第一篠山校長)令旨奉讀(同)聯合青年團長告辭(磐中小榎山校長)協議、各分團員意見發表、劍道大會、講演の見發表、

渡邊、玉川兩校では八年度に於て縣營藤原川改修工事が有つたため匡救事業は振

磐中校 卒業生

磐中本年度の卒業生は左記二百十六名である。(○)印優等生、○一印五ヶ年間精勤者、◇印一五ヶ年間勤続組長)五十音順

- 赤津真 ○秋山清 會川
- 清四郎 會川寅次郎 阿
- 部貞治 ○阿部文平 五
- 十郎定典 ○生田叶 石
- 坂光雄 石濱照雄 石井
- 俊男 市井三郎 ○木幡
- 隆 小林一允 小林徳雄
- 小松圭吾 小松秀正
- 井戸雅司 後藤俊雄

- 植田署管内 植田署
- 消防幹部會 管内二
- 町十ヶ村の消防組幹部會
- 藤弘太郎 齋藤正夫 榊
- 原富夫 佐川正 佐川道
- 明 坂本貞一 伊藤正之
- ◎猪狩常彦 内藏敏二 植
- 頭正 江幡政雄 ○海老
- 名武夫 海老根忠雄 遠
- 藤文也 織田文男 大河
- 原榮 大澤長雄 太田進
- 坂本正勝 ○酒寄勝之進
- 酒井武 酒井正夫 作山
- 友三 ○佐々木俊孝 佐
- 藤勝義 佐藤孝志 佐藤
- 三郎 佐藤親 佐藤文雄
- 佐藤文夫 佐藤文男 大
- 津賀忠吉 大平敬二郎
- 大平浩 大和田高明 岡
- 田明 岡田茂 小川亨
- 岡部龍信 萩野秀雄

- 小田悦也 小野勝三 小
- 野龜太郎 佐藤眞琴 ○
- 佐藤良知 ○里見鐵之助
- ◎澤聰 鮫島弘道 志賀功
- 志賀恒之 志賀正夫 志
- 賀守 ○志賀幸雄 志賀
- 義雄 四家仁良 四家康
- ◎櫻村一男 數馬欣
- 一片岡孝次 上遠野勝
- 金川孝平 ○金澤利男
- 金成金一郎 ○金成久
- 金成榮時 金成令宣 川
- 隅英範 菊地兵衛 鹽森
- 博 清水忠秋 庄司省吾
- 白石正英 白井晃 白
- 井靖郎 菅原富夫 杉浦
- 敬三 杉山雄 助川悟
- 鈴木五平 ○鈴木繁好

- 鈴木忠 木村健二 ○木
- 村真雄 ○桐谷義男 草野
- 敏 草野正信 ○草野寅
- 光 草野正信 草野正己
- 鯨岡忠雄 熊井幸雄 小
- 西信正 ○小幡桂三 ○
- 鈴木忠仁 鈴木達雄 鈴
- 木敏勝 鈴木文夫 ○鈴
- 木英賢 ○鈴木勝 鈴木
- 正雄 ○鈴木正夫 ○鈴
- 木美芳 □關内三郎 園
- 部孝長 高木正 高木壽
- 一郎 ○鷹崎敏彌 ○高
- 田孝 高野萬龜 高萩廣
- 高萩正己 ○高萩實
- 高萩嘉夫 ○田崎二郎
- 田中謙一 ○田中敏之
- 田邊保孔 谷崎勝人 圓

- 等、神谷箱崎久義
- 長友部落が 大浦村
- 區道の改修 宇長友
- 部落では區民協力して區道
- の改修工事を進めよう全部
- 落民が活動して着手する
- 高月旬會 平高月旬
- 會例會は三日午後七時より
- 二丁目萩野天仙氏宅に於て
- 催されるが兼題は「春淺し」
- 「風」雄子で會員外の同好
- 者も歓迎する由
- 卒業判定會 去る一
- 日卒業試験を終了した磐中
- では本日午後一時より同校
- 會議室に於て卒業判定會を
- 開いた
- 藤原衛生組合 磐崎
- 村字藤原の衛生組合では來
- る六日午前十一時より小學校
- で役員會を開き役員の改選
- を行ふと
- 義房 水口竹雄 水野良
- 雄 皆川貞雄 虫本正三
- 武藤兼 森川忠吉 諸
- 橋一郎 山形阜 山崎忠
- 山崎勤 ○湯澤幸雄 横
- 田將人 吉川三郎 津田
- 亮一 土田賴英 粒來義
- 人 ○坪内敏郎 利根川
- 輝男 飛塚誠一 富澤幸
- 雄 富田俊雄 富田久光
- 鳥居次男 中島英一
- 中島重雄 ○中津秀幸 吉
- 田清秋 ○吉田武司 吉
- 田丈夫 吉田真吉 吉田
- 信 吉田益二 ○四ッ倉
- 達也 若松巖 和田弘尚
- 渡邊 渡邊三良 渡邊
- 敏男 渡邊登 中野壽毅

- 中村徹 中村正夫 中山
- 信雄 長久保誠 永山泰
- 三 ○永山弘 二宮裕
- 新妻立雄 新妻皓司 新
- 妻文治 ○新妻衛 ○新
- 妻吉典 額賀任 根本三
- 郎 野木源一郎 野崎興
- 右衛門 野村政之 芳賀
- 他郷 芳賀吉之丞 箱崎
- 義人 橋本久 長谷川敏
- 夫 林武義 比佐三郎
- 飛田正幸 飛田芳男 平
- 澤健造 平澤幸一 蛭田
- 禮三 ○廣澤榮太郎 廣
- 瀨功 古川作馬 堀川正
- 一 堀越一男 眞木林平
- 松原弘 ○松本弘 油
- 辰男

平町 人事

回死 亡

△六間門二十 當時東京市

杉並區高圓寺一ノ四五七

眞木延甫(三八)

耳鼻咽喉科專門

大和田醫院

平町南町

電一七〇番

專 門

婦 産 科

花 柳 病 科

◎入院隨意

井 坂 醫 院

平町田町 電話五五九番

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

小店員數名募集

年齢十五才ヨリ

優遇

御希望ノ方ハ午後一時

ヨリ本人御來談下さい

平町田町一七

レストランサロン

電話三五二番

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎文庫

電六三〇番

(申込次第則書進呈)

烈風中の山火事

江名町外三ヶ村に巨り

焼失二百五十町歩

二日午後一時頃鹿島村字倉持地内山林から火風におふられ江名の山林地帯に燃え移り更に擴、せんとする模様江名、豊間、鹿島三村を始め附近村消防組員青年團員約千名出動平町小名濱町の自動車ポンプ駆せ付けたが何分山中とて水利の便極めて悪く拱手傍觀の形であつたが漸く午後九時に至り鎮火した焼失區域は鹿島、江名、豊間、高久の

山林約二百五十町歩であるが同所は昭和四年にも出火したことがある損害原因目下平署で取調べ中である尚ほ昨、鹿島村農會で植樹した杉の苗木六千本が全滅した町永崎某料理店所有の自轉車價格二十圓を窃盜逃走二日午後一時頃湯本町水野谷附近で密行中の平署員に逮捕されたが餘罪ある見込みで目下嚴重取調べ中

湯本農事講習 湯本町農會では五日午前九時より宇開船勝藏院に農事講習會を開くが講師は郡農會の柴田技手である

版華豪球卓方地

参加選手七十名 激戦を豫想さる

あす關東北選手權大會

平卓球協會主催の第一回關東北個人卓球選手權大會は愈々明日日平第三小學校講堂に於て開催される、去る一日参加申込みを締切つた處遠く東京ボウラ俱樂部、仙臺鐵道局、仙臺卓球俱樂部、福島電燈、水戸俱樂部等から猛者約三十名が必勝を期して出場する筈で其他地方の雄、平稅務署、營林署、農工銀行、磐中、第二第三等の各團體が石城卓球界の名にかけて優勝旗を獲得し第一回優勝者の榮冠を荷はんとして陸續と申込を

なし合計七十四名に達したが福電の田邊君、宮城銀行の佐藤君、營林署の信澤君、稅務署の三浦君等が優勝候補の噂高い、正に明日の大會は七十餘選手死力を盡す激戦に次ぐ白熱戦を現出するであらう

深夜の不審者 實は泥的

平署に御用

江名町仲ノ作吉田飯場方相馬郡金房村大工職鈴木正雄(三八)は二日午後十一時頃同

祈禱者の腦天を 薪割で一撃

妻を取られた腹癒せ

湯本町字三國一〇六六工職大泉宗之吉(三九)は昨日九時頃同人を訪ねて来た小名濱町宇古港祈禱者湯邊龜喜(三九)と大泉の妻モト(三九)の事から口論となり取組合ひとなつた際大泉は薪割を以つて湯邊の頭部に突き刺さり餘の重傷を負はせ傷害罪として目下平署で取調べ中であるが原因は昨日湯本町に巴と稱して夢者をして見た大泉の娘チヨの病氣回復祈禱を渡邊に依頼した處渡邊は夫の妻モトと懇いな兩名は茨城縣土浦町に逃走愛の巢を築いたが生活に失敗した結果本年一月モトに再び大泉のもとに走つたので渡邊は跡を追つて歸國したが流石に評判が悪るので大泉に面會して諒解

を得んと出掛けたのが大喧嘩になつたのであると

平第二小學校 二校雛祭

けふ母姉を招待

平第二小學校では本日午前九時より一般父兄母姉を招待し各學級毎に祭壇を設け

窃盜行脚の怪少年

ゆうべ平署に捕はる

昨日午前十一時頃平署待合室に十八九才の少年が風呂敷二ヶを抱へて徘徊して居るのを警戒中の平署員が怪み本署で取調べると右は山形市小川町寛藏長男高橋一右衛門(二九)假名で抱へた風呂敷包は待合室内で杉平一六池田三十、中學生堀

關内家の慶事

平町長橋町醬油醸造業關内半平氏令嬢アサ子嬢は松本健氏夫妻の媒約により元平小林

今晩の部
後六、〇 子供の時間
お話し「おひなまつり」西澤
後六、二五 基礎佛語講座
(十四) 目黒三郎滿洲帝國
奉祝記念の夕
後七、二〇 時事解説 法
學博士 川産松
後七、〇〇 新語談「滿洲
帝國樹立に際して」伊藤

今晩は南西の風
明日は西北風の
小雪模様

究所
後九、三〇 子供の時間
「幼稚園風お客様ごっこ」
名古屋幼稚園女子學園附屬
幼稚園児童
前一〇、〇〇 宗教講話
前一一、三〇 講演「東洋
蘭を讀へる」朝倉文雄
蘭を讀へる」朝倉文雄
對局圍碁人手合
後一〇、五〇 ハーモニカ獨
奏とジャズバンドエンター
ンゴアンサンブル指揮判
薫
後一一、二五 落語桂文治
後一一、五五 箏曲
後一二、三〇 漫談井口靜波

後三、〇〇 浪花節「最後
の一葉」天光野滿月
後五、〇〇 滿洲より大
運より中継童話劇「水の
記念碑」人連童話劇協會
後六、〇〇 子供の時間未
定
後六、二五 産業ニュース
後七、三〇 講演「國定忠
次」神山山陽
後八、〇〇 小唄 唄田村
てる 三春日とよ花 三
味線てる壽と「春
後八、三〇 掛合嘶未定
東喜代駒東喜世子
後九、〇〇 長唄 綱笛吉
住小三藏外大勢

皮切り

平商 受驗

既報去る十九日より新學中
の生徒募集を開始した平商
では出願者が一人もないの
で受付も聊か張合ひ抜の
態であつたが本日茨城縣多
賀田磯原小學校六年生小
松幹延君が申込みのトップ
を切つた因に當中は目下の
處一八名 誓女は二十一名
である

横着者

平區、科料十圓

内郷村大字金坂字御殿一坑
夫本田芳江(三九)は補充兵役
陸軍少兵でありながら昨年
八月九日本籍である田村郡
美山村村山小學校に於て執
行された簡閱點呼に正當の
事由なく参加せず陸軍召集
規則違反として科料十圓に
本日平區裁判所に於て略式
命令を以て處分された

人車脱線

一名が即死

磐城炭礦採炭夫森野菊次郎
(三九)は二日午前十時頃廿人
乗人車に乗り同礦第三斜坑

市原醫院

平町 田町
電話一四番

平職業紹介所報告

回人を求める方

△商店雜役 十六、七才
教育程度不問 月十圓位
△トラック助手 十八、二
十二才 尋卒 月四圓位
△旅館女中 四十才位まじ
教育程度不問 月六七圓
位

回職を求める方

△女中 二十才前後 尋卒
月五六圓位
△洋服見習 十六才 高卒
給料面談
△土工夫 三十八才 尋卒
△トラック助手 二十三才
尋卒
△商店員 二十才 高卒
△給仕 十九才 高卒



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第百七十一回 徳川家に祟る村正

とんだ無理難題

水上五太夫と門弟の横澤本多、白旗の三人が酒を飲みながら四方の景色を眺めてゐる處へチヨロ〜と走つて来たのは五才がばりになる可愛い男の子、五太夫の顔を見てニコ〜と笑つた

女は真赤になつて



阿母此方へ参れ、遠慮いたすな、サアどうちや一杯遣さう
女『有難う存じますが生憎不調法で』
五『ナニ飲まん、それは残念だな、併し一ツ位は飲めさうなものぢやないか、いや飲めん者に強いて飲めとは言はんがその代り酌をしてもらいたいな、酒は爛、肴は氣取り、酌はタボといつたがどうもお前によく似てゐる、お前が美しいからお前まで好い子だ』
三人の門弟はかほを見合せ

の水といふことになりませすな、ドン〜と落ちるはお茶の水か
五『何を下らんことを言つてゐるのだ、サア女中これへ来て酌をさつしやろ』
子供の母は當惑をして
女『誠に相済みませんが連れ手が参つて居りますのでお相手をしてゐる譯には参りません、どうかご勘辨を願ひませす』
五『イヤ御勘辨も赤んべいもない、酒の酌を致す位何でもなからう』
傍から三人の門弟も
□『コレ別嬪お前だつて十九や二十の新造ぢやないこんな大きな坊やがある女は酒の酌をする位のことをそんない、恥かしかるには及ぶまい、サア先生にお酌をして上げたら宜からうどうせ吾々は溝の水お前はお茶の水だ、同じ水でも大變な違ひがある、なあ白旗』
○『そなたとも殊々貴公などと來ると只の溝ぢやないおはぐろ溝の方だ』
本『そんな色一げはしてくれるな』
横『何でも宜いコレ女先生の側へ行け』
ドーンと突いた
女『アレ〜』
ヨロ〜とよろけて行つて思はず五太夫の膝の上へ手を突き
女『ご免下さい』
と逃げ様とする右の手頭をグイとにぎつて五太夫が五『二度とは望まん一度で宜いから酌をしろ、それとも酌を致さんと申すなら此

方にも覺悟がある、武士が酒宴を催し樂しみの最中に邪魔立て致した貴様等親子共斬つて捨てるから覺悟しろ』
イヤモウ色氣のない口説き方女も仕方がないから
女『それではお酌を致します』
とブル〜振へながら酌をする
五『アコレ〜散るは散るは酒の水、鳴るは瀧の水かアハ、ハ、ハ、ハ』
グイツと一息に飲んで
五『サア飲め盆を受けろ』
女『それでも私は不調法……』
五『エ、うるさい不調法は最前聞いたがさかすきを受けるだけ受けろ』
女は途方に暮れてゐるが相手は武士だけに見て居る者もあるが口を利用してやる人がない

無邪氣な子供に四人がからかつてゐる處へその子供の母親と見えまして年の頃二十四五、半元服の好い年増が急ぎ足で來たが、モジ〜しながら
女『コレ〜坊やお武家様の處へ行つておいたをしてはいけません、折角お樂しみの處お邪魔を致して濟みませんどうぞ御勘辨を願ひませす』
五『ナ、何かこの子はお前の息か』
女『ハイレ様でございます、どうも悪戯で仕様がございません』
五『イヤ子供はいたづら

女『御冗談でございませう』
五『イヤ冗談ではない見れば見る程美しい』
女『サア坊や彼方へ行きませう、此方へゐらつしやい』
五『イヤ坊やもつと此處で遊んでお出で何でもお前の好きなものを取つてやる』
コレ女中、いやさこの子の

本『先生どうも恐れ入りましたな、釋武者面の野郎の酌で誠にお氣の毒様』
五『イヤ戰場に出れば溝の水も飲まんければならんが泰平の時は茶の水も選むといふがこれ人の情だ』
本『シテ見ると只今までは戰場吾々は渴つた水これかちば泰平で二年増はお茶

女『先生どうも恐れ入りましたな、釋武者面の野郎の酌で誠にお氣の毒様』
五『イヤ戰場に出れば溝の水も飲まんければならんが泰平の時は茶の水も選むといふがこれ人の情だ』
本『シテ見ると只今までは戰場吾々は渴つた水これかちば泰平で二年増はお茶

花柳病科 小兒科 内科
藤沼醫院
入院應需
町番七〇五 紺屋町
電話五〇七
平電

白井博之儀二月七日死去仕候に付生前の御交誼を拜謝し謹告仕候
追て葬儀は來る三月四日午後一時郷里福島縣石城郡上小川村自宅に於て佛式に依り相營み可申候
昭和九年二月二十五日

嗣子 白井 一造 郎
親族 白井 俊雄 郎
友人 淺野 總三 郎
山崎 重三 郎
安島 成三 郎
金山 庄三 郎
佐藤 辰三 郎
鈴木 辰三 郎

御會葬御禮
昭和九年三月三日
平町十五丁目
嗣子 久保田 英雄
外親戚 一同

大層お寒くなりました。
皆様にはヒヤシヤシモヤケでお困りになりませんか、熱い火や湯でヤケドなされた時でも直ぐツケますればヒブクレにならずに済みます
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキレイに治ります。
キリ印 ヤケド キリキズ
クサ はたリアレ
太乙膏 ヒビ あかざれ
シモヤケ たゞれ
専賣店
平町古鍛冶町一〇
阿康藥舗
電話四四二番